

小学校国語科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	言葉による見方・考え方を身に付けるための国語科授業	
日 時	令和6年8月30日(金)	
会 場	江別市立江別第二小学校	
講 師	青山 由紀 氏 (筑波大学付属小学校 教諭)	
参加者	82名	
研修会 の 様 子		<u>青山氏の「深い学び」の捉え</u> 子どもの本気で追及したいと思う課題に向かい、対テキスト、対他者(友達)、対自分など様々な対象との対話を通して、思考続ける学びの様相。 ※「深さ」を評価するものではない
		<u>〈対話〉のタイプ</u> 授業づくりで大切なのは目的である。 ・自分の考えを形成するための対話 ・思考を拡散・多様化させるための対話 ・思考を収束させるための対話
		「個別最適な学び」は、学習形態に依存しない。一斉学習でも成立するものである。学ぶ単位が小さくなるものではない。
		子どもが「主体的に学ぶ」には、子ども自身が問いをもつ。「こだわり」を持ち追及し続ける姿、「どのように問いを持たせればよいか」は、「何を教えたらよいか」につながる。そして系統指導の必要性が大切になる。
		<u>〈読み方・読みの方略〉の系統 ～文学的文章～</u> ① 叙述や表現に即してイメージ化して読む。 ② 構造化して読む。 ③ 書き手の意図を読む。 子ども自身が自覚することが必要。共通言語を持っていないと話し合えない。